

世界人権都市フォーラム（於：韓国・光州市）への出席について

光州市は韓国における現代民主主義の発祥の地である。1980年5月18日、光州市の学生は独裁政権に対して平和的デモを行った。政府は暴力と過酷な弾圧で応じたが、運動は下火になるどころか、学生たちと自由を守るために、光州市の全市民が立ち上がる運動へと発展した。この運動は当初、鎮圧され、多数の犠牲と死傷者を生んだが、これが決定的な契機となり、のちに独裁政権を倒し、韓国に民主主義をもたらすこととなった。

この事件以降、光州市は5月18日を誠実かつ厳粛に記憶にとどめてきた。彼らは、自分たちを弾圧した非道な軍事独裁を忘れることはないし、犠牲となった殉難者を忘れることもないし、そして人権と自由への自らの勇気ある誓約を忘れることはない。

広島市と平和市長会議は、今年5月15日～18日に光州市で開催された第1回人権都市フォーラムに招待された。平和市長会議が事務局を置く(公財)広島平和文化センターのステューブン・リーパー理事長が、松井広島市長の代理として、5月16日午前に行われた2つの分科会の1つであるパネルAに出席した。ペナン(マレーシア)とアレオサン(フィリピン)の市長や、高雄(台湾)、ワシントンDC(米国)、メキシコシティ(メキシコ)、ニューヨーク(米国)の各都市の代表と共に発言したリーパー理事長は、松井市長からのメッセージを代読し、平和市長会議の概要とキャンペーンについての説明を行った。

広島市の人権に関する取組を直接説明したものでないという点で、他都市とは異なっていたが、核兵器及び戦争の惨禍を廃絶するためのキャンペーンについての同理事長の発言は、都市を人権の推進に参画させる取組である世界人権都市フォーラムにふさわしい内容であった。また、出席した市長やNGO代表などから、平和市長会議との具体的な連携方法についての提案もあり、世界的な人権コミュニティーとの協力の可能性が大いにある。